文化財とは我が国の長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで伝わっている貴重な財産のことです。その中で我々が遺跡と呼んでいるものは埋蔵文化財に区分されます。芦屋市には金津山古墳や芦屋廃寺跡といった埋蔵文化財が数多く存在します。

芦屋市の埋蔵文化財は古くから人々の関心を集め、芦屋市教育委員会による発掘調査が行われる前から、地表に落ちている土器などを調査していた在地の研究者もいました。文化財保護行政が整備されると、市教育委員会によって土地開発による遺跡の破壊を防ぐための発掘調査が数多く行われ、そこで様々な遺跡が発見されました。

1995年に発生した阪神・淡路大震災の復興に伴う発掘調査によって、各遺跡の詳しい性格や年代などの発見がありました。現在でも市内の調査は続いており、2023年にはフランク・ロイド・ライトが設計したヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）の発掘調査が行われました。そこでは、かつて存在していた温室や渡り廊下などの付属施設の痕跡が見つかりました。

本展では、市内遺跡の出土品を通して、芦屋市の発掘の歴史について展示します。

また、仏教美術資料や『伊勢物語』といった、多分野にわたる当館所蔵の歴史資料も展示し、人々が守り続けてきた芦屋の歴史と文化の魅力を様々な観点から紹介します。

●第1展示室　芦屋廃寺跡や金津山古墳などの遺跡から見つかった出土品を紹介

芦屋市指定文化財
三角縁波紋帯三神二獣鏡
【古墳時代】
（阿保山親王寺蔵）
中国で作られた青銅製の鏡で、阿保親王塚古墳から出土したと伝わっています。

芦屋市指定文化財
寺田遺跡出土 黄釉鉄絵陶器盤
【平安時代末期から鎌倉時代初頭】（当館蔵）
平安時代末頃から鎌倉時代初頭に宋からもたらされた器で、全国的にみても類例が少ない出土品です。当時の芦屋の国際性を考えるうえで貴重な資料です。

旭塚古墳出土 子持器台【飛鳥時代】
（芦屋市三条文化財整理事務所蔵）
捧げものを盛り付け葬送儀礼に用いられたと考えられます。

芦屋廃寺跡出土 複弁蓮華文軒丸瓦
【飛鳥時代後期】（当館蔵）
芦屋廃寺の屋根の軒先を飾っていた瓦です。芦屋廃寺の年代を知るうえで欠かせない資料です。

ヨドコウ迎賓館 発掘された渡り廊下跡

芦屋市指定文化財
八十塚古墳群出土 双龍環頭大刀【古墳時代後期】
（当館蔵）
6世紀後半から7世紀初頭に造られた古墳から見つかった金属製品で、埋葬品の大刀の柄頭です。類例が少ない珍しい出土品です。

●第2展示室　芦屋市立美術博物館館蔵品の歴史資料を「仏教美術」「中近世史」「伊勢物語」「近現代史」の4つに分けて紹介

德本上人像【江戸時代】（当館蔵）
修行で全国を回り、人々に「南無阿弥陀仏」と唱える念仏を広めた、江戸時代中期の浄土宗の僧です。芦屋を何度も訪れており、帰依する人々も多くいました。

芦屋市指定文化財
『三好長慶山論裁許状』附挟板【戦国時代】（当館蔵）
1742（寛保2）年に始まった六甲山の境界をめぐる荘園同士の争論において、芦屋庄側が大坂町奉公所へ過去の証拠書類として提出した文書です。1750（寛永3）年に判決が出て、芦屋庄の主張が認められました。

『太平記』【江戸時代初頭】（当館蔵）
鎌倉時代末から室町時代初頭の歴史を描いた中世軍記物語です。1336（建武3）年に打出で起きた楠木正成と足利尊氏の合戦の場面が掲載されています。

児玉多歌緒スケッチブック【昭和時代初頭】（当館蔵）
谷の断片（芦屋川）〈上〉
地獄谷の奥一皆とあそぶ子等(2)六甲山晋作〈下〉
大正時代から昭和時代初頭に芦屋で活動した日本画家のスケッチブックです。詩人としても活動しており、絵に合わせた詩が書かれているものもあります。

伊勢物語画帖【江戸時代中期】（当館蔵）
伊勢物語で詠まれた歌とその場面が描かれており、色紙画は狩野探幽（1655～1714）が手掛けています。裏丁に三つ葵の家紋があるため、徳川家に連なる大名家の婚礼調度と思われます。

在原業平図像【昭和時代】（当館蔵）
阿保親王の嫡男で伊勢物語の主人公のモデルの人物です。芦屋市内の地名の由来にもなっています。本資料は相田月仙（1875～1963）が手掛けました。